鳥類標識調査ウェブサイトについて

環境省自然環境局生物多様性センター　生態系監視科、保全科

鳥類標識調査は、野生の鳥に個体識別のための足環などを装着して放鳥し、再捕獲や観察によって、鳥類の渡りの実態や生態を明らかにし、鳥類の保全施策や国際協力の推進に役立てるための調査である。

わが国では、1924年に農商務省によって初めて行われて以来約90年にわたって続けられており、1961年以降は環境省が（公財）山階鳥類研究所への委託事業として実施している。各地で標識調査を担っているのは鳥類標識調査員（バンダー）で、鳥類の識別について十分な知識を持ち、野鳥を安全に捕獲して放鳥する技術を身につけた人たちである。この調査では約450名のバンダーがボランティアとして活躍している。これまで標識放鳥された鳥の数は500万羽を超え、調査を通じてさまざまなことが明らかになってきた。

本年6月25日に公開した鳥類アトラスWeb-GISは、鳥類標識調査結果（回収記録データ）をもとに、鳥の渡りの記録をGoogle Earthに表示したシステムである。鳥の渡りの実態を視覚的にわかりやすく捉えることができ、生態を知るための資料として利用できる。

今後は、ウェブサイトの英語化と1996年以降のデータの追加を予定している。

鳥類標識調査ウェブサイト（http://www.biodic.go.jp/banding/index.html）

- 鳥の渡り
- 鳥の形態や分類
- 鳥の年齢・寿命
- 地域の鳥類相
- 個体群や生息環境の変化

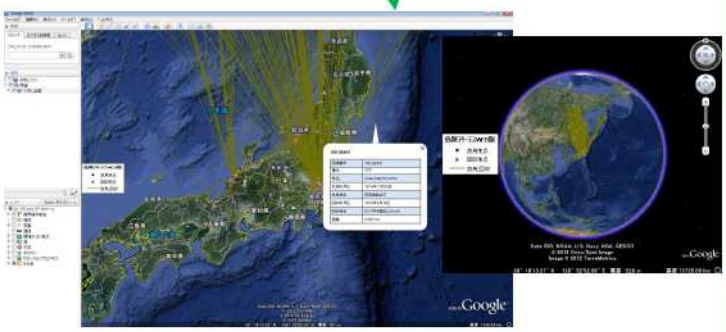
標識調査でわかること

ズックちゃん

鳥類アトラスWeb-GIS

鳥類アトラス（冊子）

・2002年に「鳥類アトラス」としてまとめられた1961～1995年の回収記録についてWeb版として再編集



・おおまかな放鳥・回収地点及びその2点を結んだ渡りの経路をGoogle Earth上に表示

・それぞれの渡りの経路ごとの詳細なデータも吹き出し表示

鳥類標識調査　トピックス
日本の長寿新記録(36才以上)のオオミズナギドリを確認！

2012 年1月26 日にマレーシアのボルネオ島で、海鳥の一種オオミズナギドリが衰弱して救護捕獲された。

このオオミズナギドリには金属製の足環がついており、1975 年5月16日に鳥類標識調査として京都の冠島で捕獲し、足環を付けて放鳥された個体であることが分かった。これは、日本に生息する野生鳥類で確認された長寿記録で、放鳥から回収までの期間が36 年8ヶ月であった。この個体は1975 年5月時点で4才以上と推定されており、2012 年1月時点では40 才以上と推定される。こうした野生鳥類が長生きしていることが分かるのも、鳥類に足環を付ける鳥類標識調査ならではの成果である。

鳥類アトラスWeb-GIS　http://www.biodic.go.jp/birdRinging/top.html